

活躍する卒業生 | Active graduates

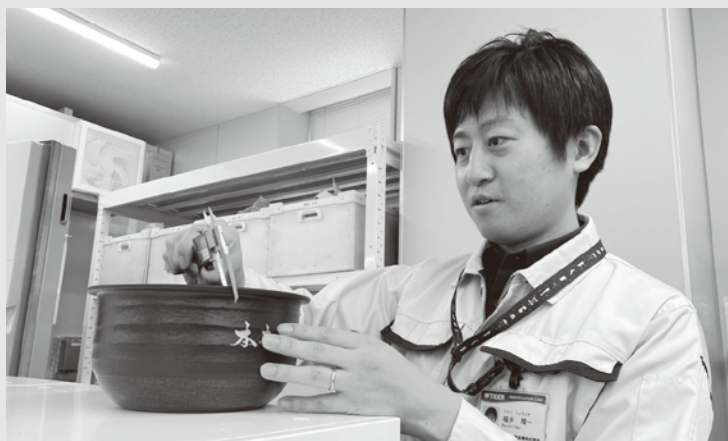
福井隆一 | ふくい・りゅういち

タイガー魔法瓶株式会社 商品開発グループ開発第5チーム 副主事



福井隆一

2011年度
大学院工芸科学研究科
博士前期課程
高分子機能工学専攻 修了



職場の様子

勉学とともに塾講師のアルバイトに 打ち込んだ学生時代

幼稚園の頃、「将来の夢は科学者」と答えていた生粋の理系人間です。京都市立西京高校の自然科学系コースに進み、国公立の理系大学である京都工芸繊維大学に興味を持ちました。落ち着いた雰囲気の大学で、勉学に勤しむには申し分ない環境でしたが、大学のサークルには参加せず、地元での塾講師のアルバイトに注力し過ぎていたからでしょうか、思い返してみても、研究室配属になるまで、学内の思い出というものがほとんど無かったように思います。当時は、それはそれで充実していましたし、それに塾講師のアルバイトについては、研究室配属後も研究活動と両立させ、修学中の6年間きっちり勤め上げることができ、就職活動時の話のネタには事欠きませんでしたので、結果オーライかな、と思っています。

現在は「ジャー炊飯器の開発」という非常に幅広い知識が求められる仕事に就いております。大学で学んだ材料・工学・電気の基礎的な知識が根幹にあり、新しい技術を創り出す発想力につながっているのを日々実感しています。

質の高いジャー炊飯器を 世の中に届けるために

就職活動は、研究室の先輩から直接聞いた情報を基に調査範囲を広げていき、その中で、タイガー魔法瓶の「品質管理」という仕事に興味を持ちました。当時は、品質管理の何たるかを理解していたわけではありませんでしたが、「およそ90年続くメーカーの品質を守り続けていることの誠実さ」といったイメージがすごくカッコ良く感じられたのを覚えています。入社後もそのときの印象が大きく変わることはありませんでした。「信頼を得るのには

時間が掛かるが、信頼を失うのは一瞬である」ことを胸に刻みながら、日々の業務に取り組んでいます。

また、私の担当するジャー炊飯器では、樹脂成型品の部品を多く取り扱うのですが、ここで、高分子機能工学専攻としての知識と経験が存分に発揮されます。成型品の寸法が出ない、外観が悪い、変形するといった不具合に対して、金型内で冷え固まっていくマクロな現象を想像し、分子鎖一本一本のミクロな挙動に思いを馳せながら、問題解決に導いています。

タイガー魔法瓶株式会社は、2023年2月3日に創立100周年を迎えました。次の100年も「世界中に幸せな団らんを広める。」というVision (ビジョン) を目指し、Mission (ミッション) の「温もりあるアイデアで、食卓に新たな常識をつくり続ける。」を果たすため、真摯なもののづくりへの挑戦を続けてまいります。

多角的な視点を得ることの大切さ

大学では勉学や研究活動に勤しむことが大切であるのはもちろんですが、例えば就職活動を見据えた場合には、他に何かもう一本、話の軸にできるような、何かに熱心に取り組んだ経験があると強いと思います。皆さま方それぞれが「自分の好きなこと」を見つけ、それに全力で取り組むことを意識して欲しいと思います。

また、同じような考え方が、私たちエンジニアにも当てはまるのではないのでしょうか。新規性のある技術やアイデアといったものは、異なる分野の知識や技術が合わさってできていることが多々あります。お客様の持つ問題を解決する新しい技術を創り出すためには、ひとつのやり方では課題解決に至らなくても、課題に対して多角的なアプローチができる複数の専門性が有れば、それが可能になるかもしれません。より良い商品づくりのため、私自身も精進してまいります。

高分子機能工学の専門性をフルに生かし、
信頼できる高品質なものづくりを。